

立命館大学文学部

京都学専攻ニューズレター

2019年5月号（第8号）

【目次】

1. 主任挨拶
2. 京都学専攻のイベント報告
3. 卒業生から後輩へ贈るメッセージ
4. 立命館京都学研究会の活動記録
5. 立命館京都学研究会の案内
6. 祇園祭船鉾ボランティア・アルバイトの案内
7. 卒業生の主な就職先

作成・発行 立命館大学文学部
地域研究学域 京都学専攻
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: h-sato@fc.ritsume.ac.jp)

1. 主任挨拶

春になり京都学専攻では新たに2回生36名を迎えることになりました。現在4回生以上が35名、3回生51名と大所帯となりました。本学の京都学では、歴史学的・文学的・地理学的アプローチを中心に様々な人文学的手法により、「京都に学ぶ」ことを目指してきました。京都の本質的な理解と発見を通じて、京都の現在、過去、未来を学生たちと共に学んでいきたいと思います。

(2019年度京都学主任 高正龍)

2. 京都学専攻のイベント報告

2019年3月3日（日）、京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの成果展示と、京都の美術史に関する講演を兼ねた「成果報告会」を、日本画家木島櫻谷（このしま・おうこく）の旧居「櫻谷文庫」にて開催しました。80畳敷きといわれる広い大画室（アトリエ）をお借りし、京都学フィールドワークⅡ・Ⅲで受講生が伝統工芸の職人さんからご指導をうけつつ作成した京独楽、扇子、水引、金箔工芸などを並べ、また京唐紙刷り体験コーナーで来場者にハガキ大の刷り物を作っていました。会場内には茶席を設け、来場者にお抹茶が振る舞われました。

また14時からは、東京都教育庁文化財調査担当学芸員の田中圭子先生に、「画家の人形蒐集」というタイトルで、日本における人形収集の歴史や、日本画家の作品への影響に関して興味深いお話を伺いました。参加者は講演後に文庫洋館で展示されている人形を実見することが出来、さらに理解が深まりました。その他、会場内には昨年度に作成した「嵐電沿線まち歩きマップ」も展示し、来場者に思い出の場所などを自由に書き込んで頂くなど、京都学専攻の活動内容の一端が分かる良い機会となりました。



会場の様子

3.卒業生から後輩へ贈るメッセージ

鈴木紗織（京都学専攻2018年度卒・専門演習(OA・田口道昭先生)）

4年間の学生時代の一番の思い出といえば、ドイツ・ライプツィヒへの一か月の短期留学です。私は一回生のとき、第二言語にドイツ語を選択し、二回生以降も副専攻を取っていました。ペラペラに話せるわけではないけれど、ドイツに行ってみたい、ドイツ人と関わってみたい、少しでもドイツという国への理解を深めたいという思いから、大学のプログラムを利用し短期留学へ行きました。ヨーロッパへ行くのも、長時間のフライトも何もかも初めての経験でした。出不精で体力もなく、基本的には一人で家にいたい私にとって、一か月も海外に行き、他人と一緒に暮らすなんて信じられないことでした。それでも一週間も経つころにはその環境にも慣れ、すべてドイツ語で進行する授業にも積極的に参加できるようになりました。なにもかもが新鮮でわくわくした毎日でした。気付けば一か月はあっという間に過ぎていき、最終日は寂しくてたまりませんでした。たった一か月では何も変わらないと思っていたけれど、大いに実りのある、私にとってとても大切に思い出に残る留学となりました。

私はひとになにかアドバイスできるほどよくできた人間ではないので、私よりも能力の高い後輩のほうが多いと思います。しかし、もし私のように無気力に毎日を過ごしている人がいて、その人に何か言えることがあるとすれば、少しでも興味を持てるものを大事にすること、です。どんな小さなことでもいいので、そしてそれを精一杯極めるほどでなくてもいいので、何か自分がこれならと思えるものをひとつ見つけ、それを大切にしてみたいです。自分には何もないと思うと何もかもやっていけなくなるので、少しでも自分の気持ちが晴れるものが見つけられると楽になるかもしれません。そうして少しずつ、毎日が楽しいとまではいかないけれど、そこまで悪いものでもないなと思えるように、ほどほどに頑張っていってほしいなと思います。

岩崎真澄（京都学専攻2018年度卒・専門演習(OD・河角直美先生)）

私は京都学を専攻し、4年間を通して「京都学」と名のつく授業を特に積極的に受講し尽くしました。そのなかでも思い入れが深い授業は京都学フィールドワークⅡ,Ⅲです。

この授業では、京都の伝統工芸を守り続けている職人さんから伝統工芸についてご教示いただき、さらにその工芸を体験させていただくことによってより伝統工芸への理解を深められる授業です。この授業で金箔や水引などさまざまな職人さんの、伝統工芸を守ることの苦労や喜びについて知ることができました。また、西陣織の糸染め職人さんに聞き取り調査をした際には、職場に伺って実際の作業を見せていただきました。職人さんによるプロの作業を見ながら伝統の在りかただけでなく、これから社会に出る上で大切なお話を聞くことができ、たいへん貴重な体験をすることができました。伝統工芸の職人さんと関わる機会なんて、普通に暮らしていたらなかなかありません。京都学を専攻することで得られたこのチャンスを、みなさんぜひ大切にしてほしいです。

そして、特にみなさんにこれから大切にしてほしい授業はゼミです。ゼミは他の授業とは性質が異なるため、私はなんとなく出席さえしていればよいと思っていました。みなさんの大学生活の最後には全員に卒業論文という関門が待ち構えています。私は卒業論文を書いているときにゼミこそ大切な授業だったんだ、と気がつきました。自分1人ではどうしようもなくなったときに相談に乗ってくださる先生がいて、つらい執筆時に一緒に頑張る仲間がいて。卒業後に振り返ってみて、大切な授業だったなあとしみじみ思っています。

学業以外にも楽しいことはたくさんありますが、卒業のためにも学業も疎かにしすぎずに学生生活を満喫してください。

横村優香（京都学専攻2018年度卒・専門演習(OE・田中聡先生,山本真紗子先生)）

私は、生まれも育ちも京都です。京都出身であるにも関わらず京都学を専攻したのは、京都があまりにも複雑で理解し難い地域であるからです。しかしそこが、京都学を学ぶにあたって大変面白い部分であると感じます。今回在校生のみなさんへのメッセージとして、私の大学4年間の学びと卒論のテーマについて少しばかり書かせて頂きます。少しでもみなさんの今後の参考になれば、と思います。

1回生では、地域研究学域の地理・観光・京都それぞれを学ぶことで地域の基本的概念を理解しました。私は入学時から京都学専攻に心惹かれていたので、専攻選択で迷うことはありませんでした。2回生ではフィールドワークを中心とした授業が増え、京都に対する様々なアプローチ方法を理解することが出来ました。そして3回生では、いよいよゼミに所属し、卒論について具体的な学びを行いました。3回生は将来のことも考えなければいけない時期であり、一番多忙で大変でした。卒論への筋道をしっかりと立て、何事も計画的に進めることが成功の鍵だと思います。

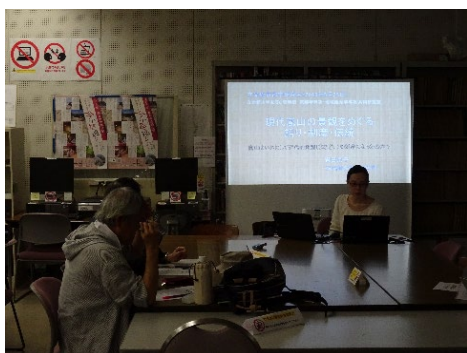
4回生で私は「西本願寺門前町におけるまちづくりの現状と課題」というテーマで卒論を書きました。フィールドワークを中心としたテーマで、まちづくりという地域の課題を通して、私自身が地域に還元することが出来たと感じています。今後卒論テーマを考えるみなさんには、是非「地域に寄り添う」ことを意識して頂きたいです。京都は、複雑で理解し難い地域であるからこそ、寄り添い、深く関わることで見えてくるものが沢山あります。せっかく京都学に所属しているのですから、様々な人々との出会いを通して、表面的ではない深い京都の実情を学ぶべきです。これからの大学生活、京都学での様々な発見を通じて『京都「に」学ぶ』ということを考えてみて下さい。

4.立命館京都学研究会の活動記録

京都学専攻では「京都」という共通の対象を軸に文学・歴史学・地理学をはじめとする多彩な分野からのアプローチにより、教育・研究・地域連携などの活動が盛んに進められています。

2018年度の研究会は下記のとおり、学内外の他分野の先生方をお招きし、教員や学生、一般の方々も交えた熱い議論が行われました。引き続き、2019年度も研究会を開催してまいります。オープンな研究会で、初めての方でも気軽に参加できます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

通算	年度	発表者	タイトル	日にち	場所
21回目	1回目	岩田 京子 先生 立命館大学大学院 先端総合学術研究科	「現代嵐山の景観をめぐる語り・制度・伝統」	2018年5月25日	京都学共同研究室
22回目	2回目	三浦 俊介 先生 立命館大学 非常勤講師	「神々の尻尾―神社名における「尾」の意味―」	2018年7月13日	京都学共同研究室
23回目	3回目	木立 雅朗 先生 立命館大学 文学部教授	「考古学による京都学の実践―京都の近現代遺跡と史資料群の保存と活用―」	2018年10月26日	京都学共同研究室
		加茂 瑞穂 先生 学振特別研究員RPD 京都工芸繊維大学	「近代染織関連資料群の保存と研究利用について」		
24回目	4回目	長谷川 奨悟 先生 佛教大学宗教文化ミュージアム	「江戸～明治期の京都観光におけるメディア・ホスト・ゲスト」	2019年1月16日	京都学共同研究室



昨年度の研究会の様子

5.立命館京都学研究会の案内

2019年度第1回目(通算25回目)の研究会をご案内いたします。今回は4月から京都学専攻の特任助教に着任しました佐藤弘隆先生による発表です。ぜひふるってご参加ください。

日時: **2019年 5月31日(金曜日)16:30～**

会場: **京都学専攻・地域観光学専攻 共同研究室** (衣笠キャンパス、啓明館1階東端の部屋)

発表者: **佐藤 弘隆** (立命館大学文学部京都学専攻・特任助教)

タイトル: **「歴史都市京都の町文書データベースの構築と祭礼研究への活用」**

参加費: **無料**

事前申込: **不要** どなたでもご参加いただけます。

※研究会終了後には発表者を囲んだ懇親会を行います。お時間のある方はご参加ください。

6. 祇園祭船鉾ボランティア・アルバイトの案内

地域研究学域では、公益財団法人祇園祭船鉾保存会からの委託を受け、教育・研究活動の一環として、毎年、祇園祭の期間中に船鉾の運営をお手伝いいただき学生を募集しています。京都で過ごす大学生活にしかできない貴重な体験です。これをきっかけに卒業論文のテーマを見つけた学生や現在も手伝いに来ている卒業生もいます。是非、奮ってご参加ください。

もちろん、他学部・他専攻からのご参加も歓迎します。

ボランティア

7月3日(水)～9日(火)

時間：18:30-21:30(途中参加・退出可能)

内容：二階囃子を聞きながら授与品(粽・お守り)作成

※大学からの交通費として500円を支給します。

7月17日(水)

時間：7:00-14:00頃

内容：山鉾巡行の曳手・町会での留守番

※曳き手は男性のみです。赤飯と粽、手ぬぐいがもらえます。

アルバイト

7月11日(木)～16日(火)

時給：900円

時間：8:30-12:00

12:00-17:00

17:00-22:00

(参加者に希望を集計し、3交代制のシフトを組みます。)

内容：鉾建て交通整理、拝観受付(浴衣貸出)、授与品販売、

会計補助、拝観客の誘導、船鉾の解説など



参加希望の方は下記アドレス(QR)に氏名・性別・所属・回生・電話番号をお知らせください。6月の初旬にシフト希望表をお送りします。ご質問・ご相談も受け付けます。

h-sato@fc.ritsumeai.ac.jp (京都学専攻特任助教・佐藤弘隆)



7. 卒業生の主な就職先 (2016～2018年度卒業生)

【官公庁】京都市人事委員会、横浜市人事委員会、茨城県人事委員会、北海道人事委員会、福知山市役所、島本町役場、田原市役所

【教育・芸術】京都府教育委員会、京都府乙訓教育局、徳島県教育委員会、(学)桜丘学園

【観光・交通】(株)阪急交通社、(株)JALスカイ札幌、阪急電鉄(株)、帝産湖南交通(株)
(株)ジェイアール東海パッセンジャーズ

【建設・製造】鹿島建設(株)、大東建託(株)、MMCテクニカルサービス(株)、(株)村田製作所、TOWA(株)、(株)永楽屋、ジーク(株)、福田金属箔粉工業(株)、住友林業株式会社、スズキ(株)社、中外製薬(株)、JFEスチール(株)

【サービス・小売】バンテック(株)、タキイ種苗(株)、バンネットワーク(株)、(株)良品計画、イオンリテール(株)、日本マクドナルド(株)、佐竹食品(株)、(株)ドン・キホーテ、日本郵便(株)、(株)AOKI、東宝ビル管理(株)、住友不動産販売(株)、メルセデス・ベンツ日本(株)、イオンモール(株)、大和ハウス工業(株)、富尾酒店、日本中央競馬会、(株)ビームス、(株)福屋ホールディングス、(株)AOKI、YKT(株)、セガサミーホールディングス(株)、ソニーリージョナルセールス(株) 福井コンピュータホールディングス(株)

【金融・保険】(株)三菱UFJ銀行、三井住友信託銀行(株)、(株)京都銀行、(株)関西みらい銀行、住友生命保険(相)、近畿産業信用組合、アイフル(株)、岡三証券(株)、明治安田生命保険(相)、住友生命保険(相)、第一生命保険(株)

【出版・マスコミ】(株)ピーエイチピー研究所、(株)昭文社、(株)岐阜新聞社、(株)大新社

京都学専攻に関する情報はFacebookで随時配信しています！

<https://www.facebook.com/ritsu.kyotogaku/>



いいね！お願いします。



記事に関するお問い合わせはこちらまで。

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: h-sato@fc.ritsumeai.ac.jp)